

# 県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

## 要旨

〈今期（2023年1月時）〉

### 業況：全般に悪化 仕入単価低下するも、売上も減少し採算は悪化

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2022年10月時調査）に比べ▲3.3<sup>ポイント</sup>の▲4.0と悪化したが、先行き（2023年4月時予想）は今期比+8.0<sup>ポイント</sup>の4.0と改善の見通し。
- ・売上 DI も同様に前回比▲6.9<sup>ポイント</sup>の4.6と減少したが、先行きは今期比+1.4<sup>ポイント</sup>の6.0と増加の見通し。
- ・採算 DI も前回比▲11.3<sup>ポイント</sup>の▲40.4と悪化したが、先行きは今期比+15.1<sup>ポイント</sup>の▲25.3と改善の見通し。
- ・販売単価 DI は前回比+4.1<sup>ポイント</sup>の31.1と上昇したが、先行きは今期比▲5.8<sup>ポイント</sup>の25.3と低下の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比▲1.9<sup>ポイント</sup>の60.7と低下し、先行きも今期比▲10.0<sup>ポイント</sup>の50.7と低下の見通し。
- ・引き合い DI は前回比▲5.5<sup>ポイント</sup>の1.3と減少し、先行きも今期比▲5.3<sup>ポイント</sup>の▲4.0と減少の見通し。
- ・在庫 DI は前回比+2.7<sup>ポイント</sup>の4.8と増加したが、先行きは今期比▲2.1<sup>ポイント</sup>の2.7と減少の見通し。
- ・今期については、価格交渉等による販売単価の上昇はあるものの、原材料高、燃料高等の仕入価格高騰が継続しており、前回と比べて採算は悪化する状況となった。今後については、原材料の高騰が続く見通しから厳しいとする意見が多く寄せられたものの、コロナ禍の影響が落ち着きつつあることや価格交渉等により、採算は改善を見込み、業況全般は改善の見通しとなった。

### 資金繰り・設備・雇用：資金繰りは悪化、設備不足、人手不足

- ・資金繰り DI は前回比▲5.3<sup>ポイント</sup>の▲6.0と悪化したが、先行きは今期比+5.3<sup>ポイント</sup>の▲0.7と改善の見通し。
- ・設備 DI は前回比▲0.6<sup>ポイント</sup>の▲6.7と不足となるが、先行きは今期比+0.7<sup>ポイント</sup>の▲6.0と改善の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比▲14.0<sup>ポイント</sup>の▲46.0と人手不足の状態が続き、先行きは今期比+11.5<sup>ポイント</sup>の▲34.5と改善するも、引き続き人手不足の見通し。労働時間 DI は、前回比▲3.4<sup>ポイント</sup>の2.0と減少し、先行きは今期比+3.4<sup>ポイント</sup>の5.4と増加の見通し。賃金 DI は前回比+1.1<sup>ポイント</sup>の20.0と増加し、先行きも今期比+7.5<sup>ポイント</sup>の27.5と増加する見通し。

### 経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「採算悪化」が53.0%の第1位となり、主な対応方針は「収益力確保」が35.8%となった。第2位の課題は「人手不足・技術者不足」が47.7%であり、主な対応方針は「新規採用・獲得」が41.7%となった。次いで「売上減少・停滞」が39.7%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が29.8%となった。

### 正社員の採用状況(中途採用含む)

- ・正社員の採用状況として最も多かったのが「採用しなかった・できなかった」の45.5%であった。2番目に多かったのが「予定通り（8割以上）採用できた」の17.9%であった。次いで多かった項目が「1割以上3割未満 採用できた」の15.2%であった。

### 必要とする人材の職種

- ・必要とする人材の職種について最も多かったのが「技術職」の60.9%であった。2番目に多かったのが「営業職」の38.4%であった。次いで多かったのが「アルバイト・パート」の21.9%であった。

## 業況全般

業況全般 DI は前回に比べ悪化したものの、先行きは改善の見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、

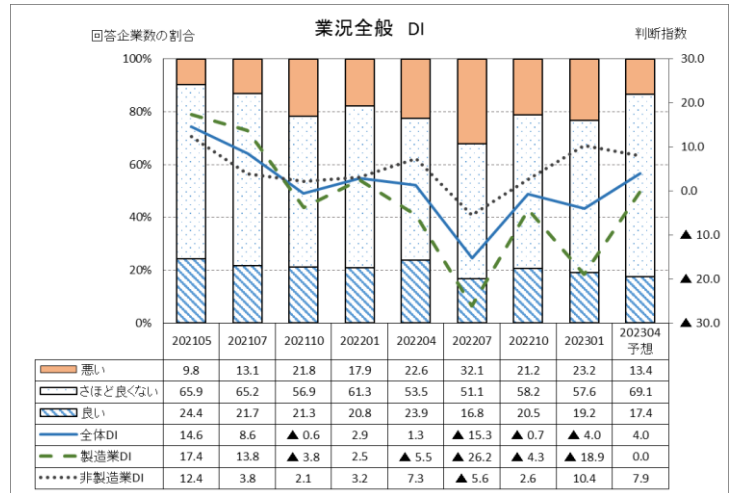
▲4.0（前回比▲3.3<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲18.9（同▲14.6<sup>ポイント</sup>）と悪化し、

非製造業 DI は 10.4（同+7.8<sup>ポイント</sup>）と改善した。

先行きでは、全体 DI は 4.0（今期比+8.0<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 0.0（同+18.9<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しで、非製造業 DI の先行きは 7.9（同▲2.5<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。

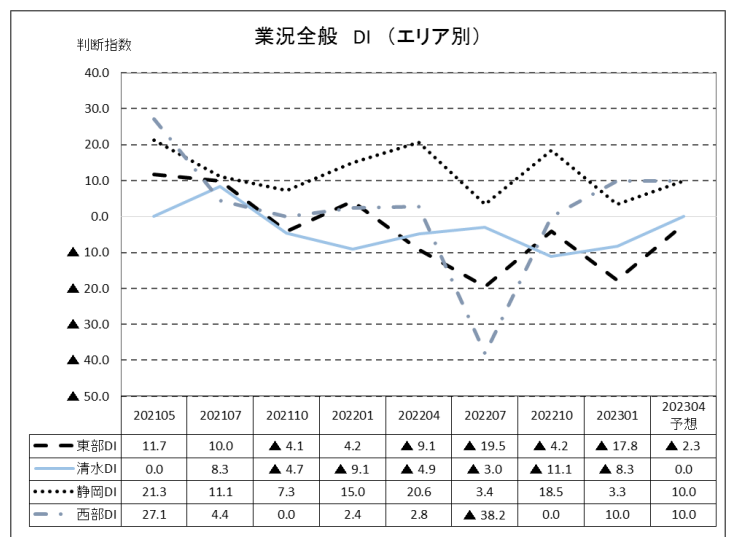


## 業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、静岡エリアと東部エリアは悪化したものの、他は改善し、先行きは、西部エリアは横這い、他は改善の見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、西部 DI が 10.0（前回比+10.0<sup>ポイント</sup>）、清水 DI が▲8.3（同+2.8<sup>ポイント</sup>）と改善したが、静岡 DI が 3.3（同▲15.2<sup>ポイント</sup>）、東部 DI が▲17.8（同▲13.6<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

また、先行きについては、西部エリアは横這いの見通しで、その他のエリアは改善する見通しである。



## 売上

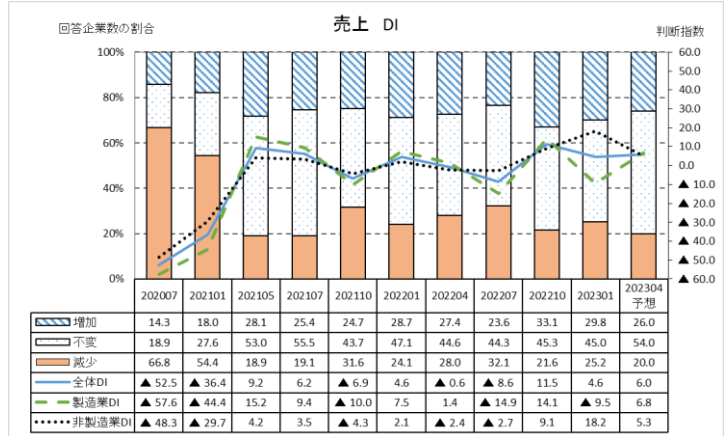
売上 DI は前回に比べ減少したものの、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は 4.6（前回比 ▲6.9<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は ▲9.5（同 ▲23.6<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製造業 DI は 18.2（同+9.1<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 6.0（今期比+1.4<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行き 6.8（同+16.3<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI の先行きは 5.3（▲12.9<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



## 採算

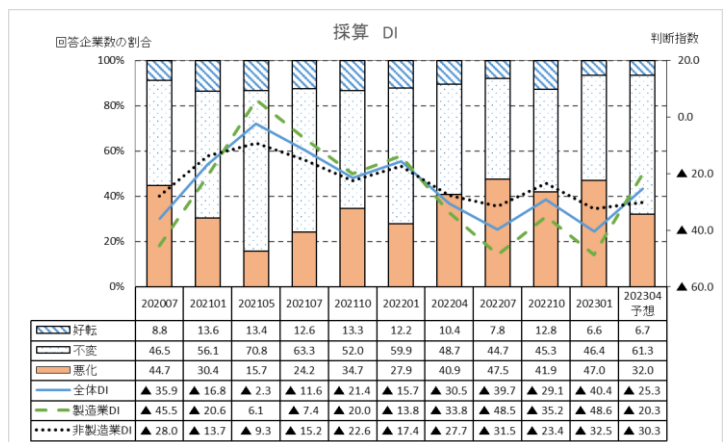
採算 DI は前回に比べ悪化したものの、先行きは改善の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は ▲40.4（前回比 ▲11.3<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は ▲48.6（同 ▲13.4<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI は ▲32.5（同 ▲9.1<sup>ポイント</sup>）と、ともに悪化した。

先行きでは、全体 DI は ▲25.3（今期+15.1<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは ▲20.3（同+28.3<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI の先行きは ▲30.3（同+2.2<sup>ポイント</sup>）と、ともに改善する見通しである。



## 販売単価

販売単価 DI は前回に比べ上昇したものの、先行きは低下の見通し

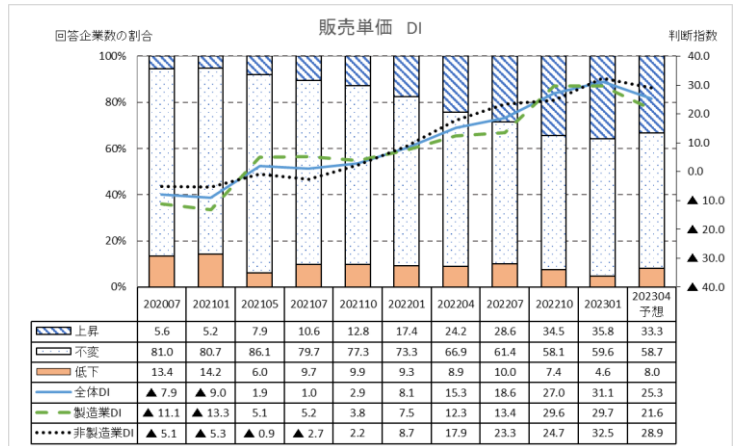
今期の販売単価 DI における全体 DI は 31.1

(前回比+4.1<sup>ポイント</sup>) と上昇した。

製造業 DI は 29.7 (同+0.1<sup>ポイント</sup>)、非製造業 DI は 32.5 (同+7.8<sup>ポイント</sup>) と、ともに上昇した。

先行きでは、全体 DI は 25.3 (今期比▲5.8<sup>ポイント</sup>) と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 21.6 (同▲8.1<sup>ポイント</sup>)、非製造業 DI の先行きは 28.9 (同▲3.6<sup>ポイント</sup>) と、ともに低下する見通しである。



## 仕入単価

仕入単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

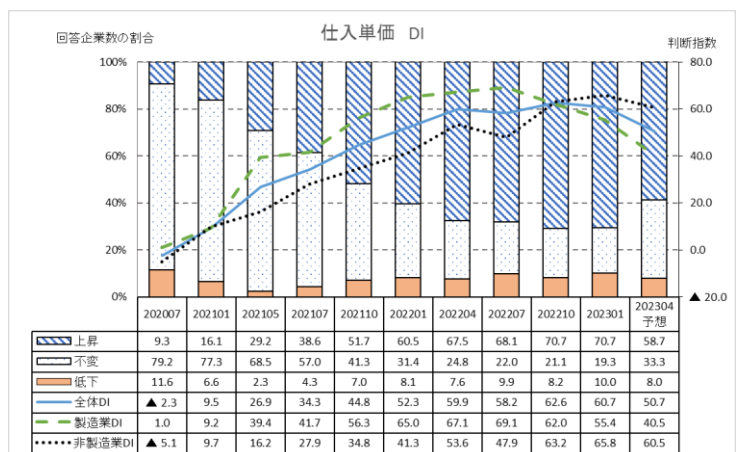
今期の仕入単価 DI における全体 DI は 60.7

(前回比▲1.9<sup>ポイント</sup>) と低下した。

製造業 DI は 55.4 (同▲6.6<sup>ポイント</sup>) と低下し、非製造業 DI は 65.8 (同+2.6<sup>ポイント</sup>) と上昇した。

先行きでは、全体 DI は 50.7 (今期比▲10.0<sup>ポイント</sup>) と低下する見通しだが、依然として高水準を見込む。

製造業 DI の先行きは 40.5 (同▲14.9<sup>ポイント</sup>)、非製造業 DI の先行きは 60.5 (同▲5.3<sup>ポイント</sup>) と、ともに低下する見通しである。



## 引き合い

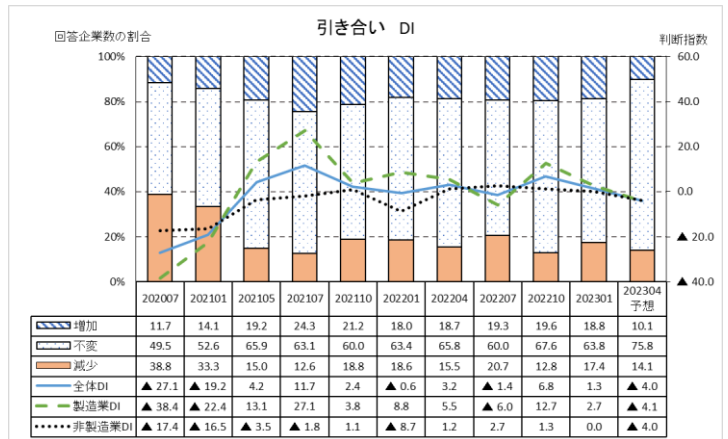
引き合い DI は前回に比べ減少し、先行きも減少の見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は 1.3（前  
 回比▲5.5<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は 2.7（同▲10.0<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI  
 は 0.0（同▲1.3<sup>ポイント</sup>）と、ともに減少した。

先行きでは、全体 DI は▲4.0（今期比  
 ▲5.3<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲4.1（同▲6.8<sup>ポイント</sup>）、非  
 製造業 DI は▲4.0（同▲4.0<sup>ポイント</sup>）と、ともに減  
 少する見通しである。



## 在庫

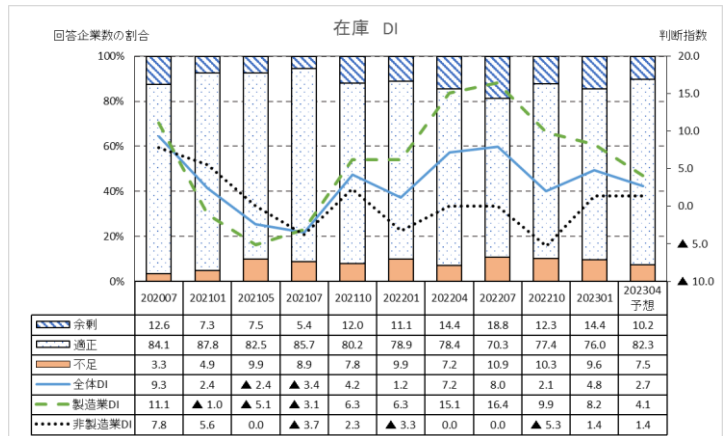
在庫 DI は前回に比べ増加したものの、先行きは減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は 4.8（前回比  
 +2.7<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 8.2（同▲1.7<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製  
 造業 DI は 1.4（同+6.7<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 2.7（今期比▲2.1<sup>ポイント</sup>）  
 と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 4.1（同▲4.1<sup>ポイント</sup>）と減少  
 し、非製造業 DI の先行きは 1.4（同±0.0<sup>ポイント</sup>）と  
 横這いの見通しである。



## 資金繰り

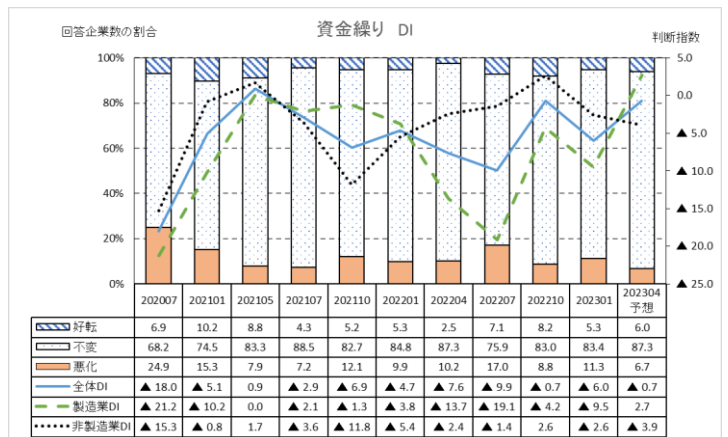
資金繰り DI は前回に比べ悪化したものの、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は▲6.0  
 （前回比▲5.3<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲9.5（前回比▲5.3<sup>ポイント</sup>）、非製造  
 業 DI は▲2.6（前回比▲5.2<sup>ポイント</sup>）と、ともに悪  
 化した。

先行きでは、全体 DI は▲0.7（今期比+5.3<sup>ポイント</sup>）  
 と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 2.7（同+12.2<sup>ポイント</sup>）と改善  
 し、非製造業 DI の先行きは▲3.9（同  
 ▲1.3<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。



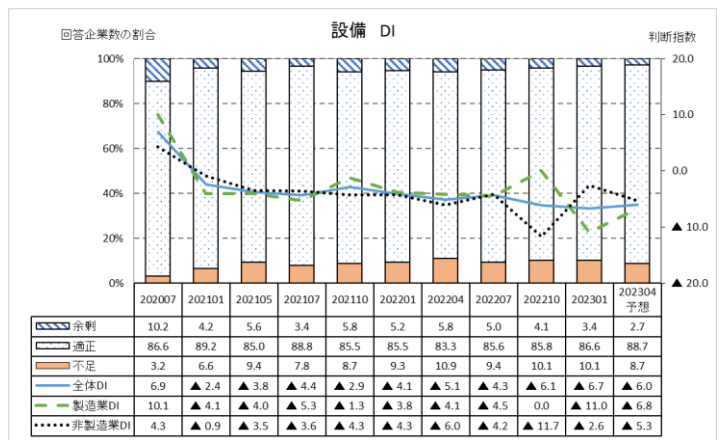
## 設備

設備 DI は前回と同様に設備不足が続くも、先行きは改善の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は▲6.7（前回比▲0.6ポイント）と設備不足の状態が続く。

製造業 DI は▲11.0（同▲11.0ポイント）と悪化し、非製造業 DI は▲2.6（同+9.1ポイント）と改善した。先行きでは、全体 DI は▲6.0（今期比+0.7ポイント）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲6.8（同+4.2ポイント）と改善し、非製造業 DI の先行きは▲5.3（同▲2.7ポイント）と悪化する見通しである。

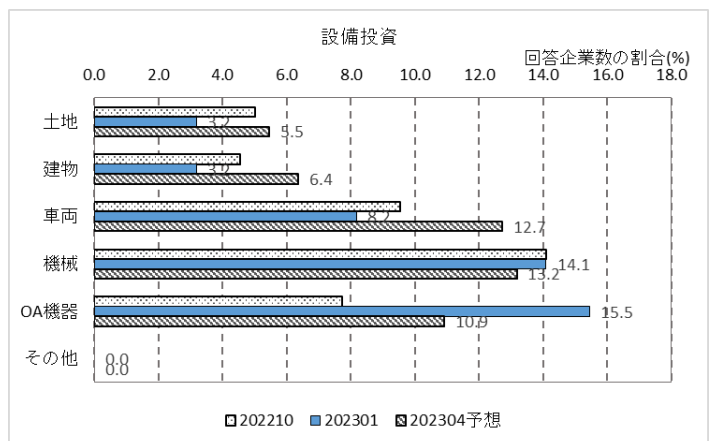


## 設備投資（複数回答可）

設備投資については、今期および先行きも、機械、車両、OA 機器が主流

今期の設備投資の状況は、OA 機器 15.5%、機械 14.1%、車両 8.2%、土地 3.2%、建物 3.2% となった。

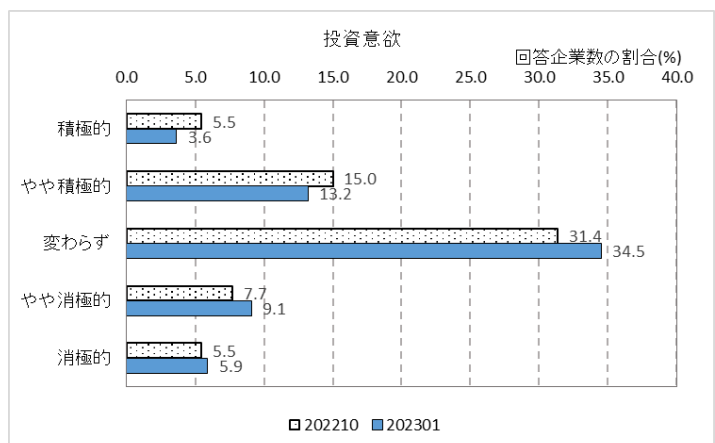
先行きでは、機械 13.2%、車両 12.7%、OA 機器 10.9%、建物 6.4%、土地 5.5% に設備投資する見通しとなった。



## 投資意欲

「積極的」が 3.6%（▲1.9ポイント）となり、「変わらず」が 34.5%（+3.1ポイント）、「消極的」が 5.9%（+0.4ポイント）となった

今期の投資意欲の状況は、「積極的」3.6%（前回比▲1.9ポイント）、「やや積極的」13.2%（同▲1.8ポイント）、「変わらず」34.5%（同+3.1ポイント）、「やや消極的」9.1%（同+1.4ポイント）、「消極的」5.9%（+0.4ポイント）となった。



## 人員数

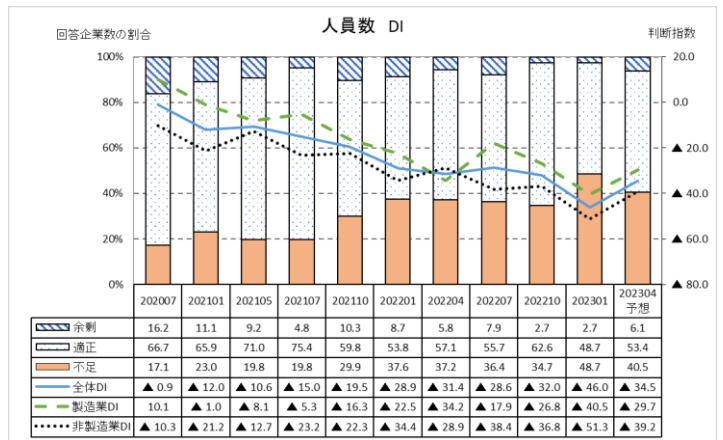
人員数 DI は前回に比べ悪化し、先行きは改善するも引き続き人手不足が続く見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は▲46.0（前  
 回比▲14.0<sup>ポイント</sup>）と、より人手不足の状態となっ  
 た。

製造業 DI は▲40.5（同▲13.7<sup>ポイント</sup>）、非製造業  
 DI は▲51.3（同▲14.5<sup>ポイント</sup>）と、ともに悪化し  
 た。

先行きでは、全体 DI は▲34.5（今期比  
 +11.5<sup>ポイント</sup>）と改善するも、引き続き人手不足が  
 続く見通しである。

製造業 DI の先行きは▲29.7（同+10.8<sup>ポイント</sup>）、非  
 製造業 DI の先行きは▲39.2（同+12.1<sup>ポイント</sup>）と、  
 ともに改善する見通しである。



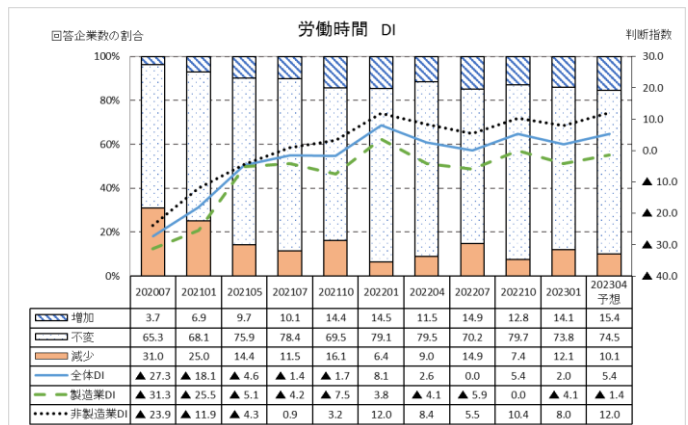
## 労働時間

労働時間 DI は前回に比べ減少したものの、先行きは増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は 2.0（前  
 回比▲3.4<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は▲4.1（同▲4.1<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI  
 は 8.0（同▲2.4<sup>ポイント</sup>）と、ともに減少となった。  
 先行きでは、全体 DI は 5.4（今期比+3.4<sup>ポイント</sup>）と  
 増加の見通しである。

製造業 DI の先行きは▲1.4（同+2.7<sup>ポイント</sup>）、非製  
 造業 DI の先行きは 12.0（同+4.0<sup>ポイント</sup>）と、とも  
 に増加する見通しである。



## 賃金

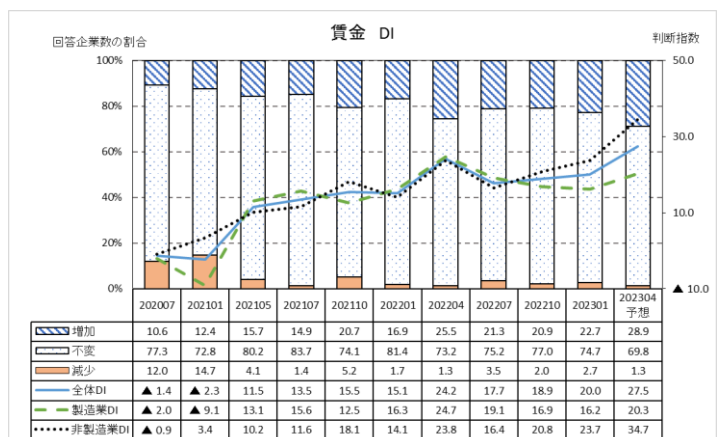
賃金 DI は前回に比べ増加し、先行きも増加の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は 20.0（前回  
 比+1.1<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 16.2（▲0.7<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製造  
 業 DI は 23.7（同+2.9<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 27.5（今期比+7.5<sup>ポイント</sup>）  
 と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 20.3（同+4.1<sup>ポイント</sup>）、非製  
 造業 DI の先行きは 34.7（同+11.0<sup>ポイント</sup>）と、とも  
 に増加する見通しである。



## 経営上の課題（2つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

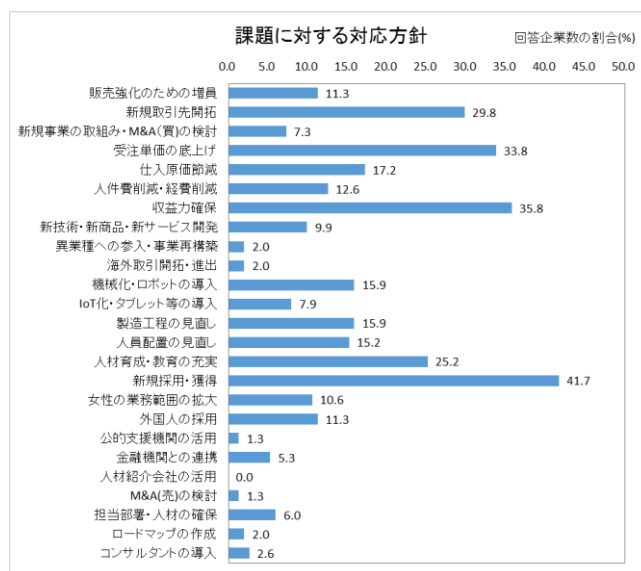
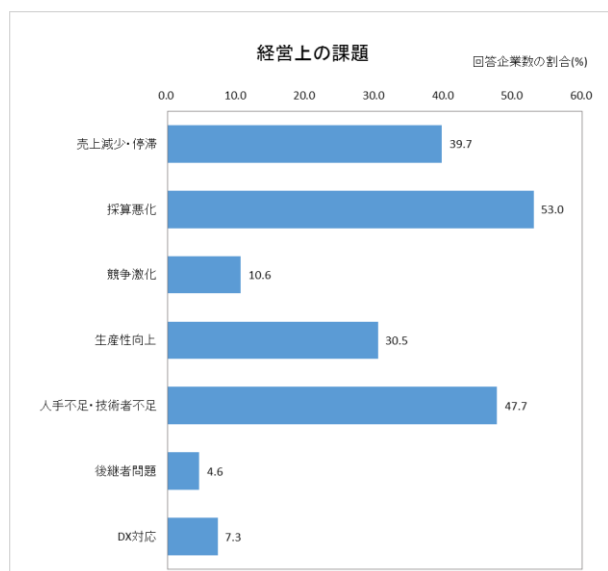
経営上の課題として最も多かったのが「採算悪化」53.0%であった。その課題に対する対応方針として「収益力確保」が35.8%、「受注単価の底上げ」が33.8%、「仕入原価節減」が17.2%、「人件費削減・経費削減」が12.6%であった。

2番目に多かったのが「人手不足・技術者不足」47.7%であり、対応方針として「新規採用・獲得」が41.7%、「人材育成・教育の充実」が25.2%、「外国人の採用」が11.3%、「女性の業務範囲の拡大」が10.6%であった。次いで多かったのが「売上減少・停滞」39.7%であった。その課題に対する対応方針として「新規取引先開拓」が29.8%、「販売強化のための増員」が11.3%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が7.3%であった。

「生産性向上」は30.5%であり、対応方針として「機械化・ロボットの導入」と「製造工程の見直し」が15.9%、「人員配置の見直し」が15.2%、「IoT化・タブレット等の導入」が7.9%となった。「競争激化」は10.6%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が9.9%、「異業種への参入・事業再構築」と「海外取引開拓・進出」が2.0%であった。

「DX対応」は7.3%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が6.0%、「コンサルタントの導入」が2.6%、「ロードマップの作成」が2.0%であった。

「後継者問題」は4.6%であり、対応方針として「金融機関との連携」が5.3%、「公的支援機関の活用」と「M&A（売）の検討」1.3%、「人材紹介会社の活用」が0.0%となった。

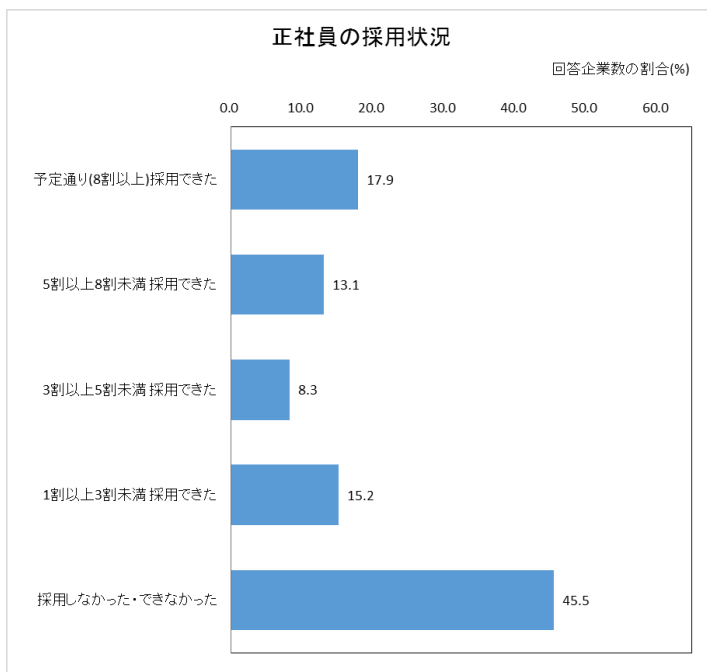




## 正社員の採用状況(中途採用含む)

最も多かったのが「採用しなかった・できなかった」の45.5%、次いで「予定通り(8割以上)採用できた」の17.9%であった

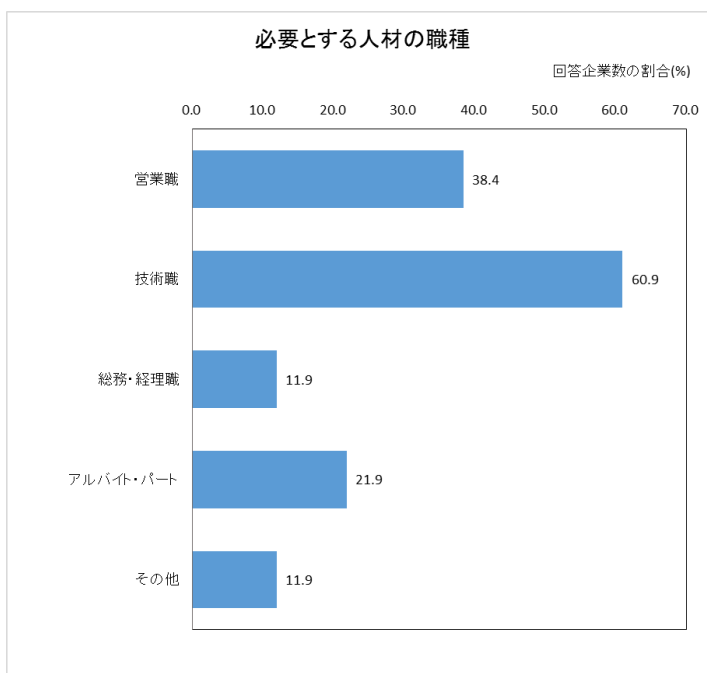
正社員の採用状況として最も多かったのが「採用しなかった・できなかった」45.5%であった。2番目に多かったのが「予定通り(8割以上)採用できた」17.9%であった。次いで多かったのが「1割以上3割未満 採用できた」15.2%、以下、「5割以上8割未満 採用できた」13.1%、以下、「3割以上5割未満 採用できた」8.3%となった。(有効回答企業数 145社)



## 必要とする人材の職種

最も多かったのが「技術職」の60.9%、次いで「営業職」の38.4%であった

必要とする人材の職種について最も多かったのが「技術職」60.9%であった。2番目に多かったのが「営業職」38.4%であった。次いで多かったのが「アルバイト・パート」21.9%であった。以下、「総務・経理職」と「その他」が11.9%であった。(有効回答企業数 138社、複数回答可)



## 特徴的なコメント

	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食品製造業	原料の不足や値上がりがある	仕入単価上昇の天井が読めない状況の中で、販売単価が上がらない要因は、スーパーのバイヤーが抵抗していること等である
木材・木製品製造業	欧米の金利上昇に伴い、住宅購入意欲が減退するなど、木材価格の低下要因が出てきている	木材価格の低下により、売上は減少傾向を示すことを予想している
パルプ・紙・紙加工品製造業	製造原価が高騰している	製品が値上げしている
自動車・同部品製造業	原材料が増加しているので売上高は増加するが、付加価値は電気料等費用の増加で低下している	原料価格は高止まりの状況だが、電力費はさらに上昇する見込みである
建設業	原材料高騰により、利益を圧迫している	売上は堅調なもの原材料の価格上昇分をどこまで売価に反映出来るかが鍵となる
卸・小売業	円安による仕入れ商品の価格高騰や国内相場が上昇している 値上げが不十分である	人件費、光熱費、仕入価格の上昇により採算は悪化している
物流・運輸業	販売価格の転嫁が未だ終わっていない	引き続き、値上交渉を実施していく
その他サービス業	新型コロナ感染者の拡大と入園者のトレードオフの関係が解消して、コロナ前の水準に戻った	集客は戻りつつあるが、インフレによりレジャーへの支出を抑えると集客が減少する可能性がある 光熱費の高騰が、利益を圧迫しつつある

	正社員の採用状況（中途採用含む）	必要とする人材の職種
金属製品製造業	コロナ環境の中、現状維持で推移している	顧客拡大の営業強化と内製力強化のための技術力アップを図りたい
一般機械器具製造業	数年後の将来設計を見据えて、そろそろ若い社員を入れて育てていく時期だと思い採用した	若返りを図りたい 仕事に意欲的な人材を求めている
自動車・同部品製造業	従業員の負担を減らす為、1名採用した	生産力を維持したい
建設業	土木の人材が足りない	技術者の高齢化が進んでいる
物流・運輸業	定着しない	運転手が不足している 人を使う管理者の能力が不足している
卸・小売業	応募はあるが、求める人材が少なく採用が出来ていない	若い(35歳未満)営業マンを募集している
医療・福祉	予定通りの採用はできているが、資格職の採用に苦慮している	介護職員が不足している
その他サービス業	若年層の採用が困難である	生産力の維持向上と売上増を図りたい

## 調査の概要

調査時点：2023年1月20日～2月16日

調査方法：郵送による記名アンケート方式、  
およびWEBによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220社

回答企業：151社

回答率：68.6%

NO.	業種名	先数
11	飲食品製造業	11
12	木材・木製品製造業	6
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	7
14	化学工業	4
15	金属製品製造業	15
16	一般機械器具製造業	12
17	自動車・同部品製造業	15
18	その他製造業	4
21	建設業	17
22	不動産業	8
31	卸・小売業	11
41	物流・運輸業	16
51	医療・福祉	11
52	その他サービス業	14
	計	151

## 株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2023年2月24日

〒424-0941

静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011

E-mail smz-center@juno.ocn.ne.jp

杉山・福井